

第 67 年度（令和 2 年度）事業報告書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

公益財団法人 篷 庵 社

第 67 年度（令和 2 年度）事業報告

（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）

I. 事業の概要

本財団は、薬学等の進歩発展に資するため必要な研究を行うものに対し、研究の助成並びに研究費の援助を行い、もって薬学の発展に寄与することを目的として、主要事業およびこれに付帯する事業として以下の活動を実施した。

II. 事業の内容

1. 研究助成金の交付

令和 2 年度の研究助成金として、研究助成（全国対象 19 件 950 万円）、および特別研究助成（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県対象 5 件 1,250 万円）、計 24 件 2,200 万円を交付した。

1) 研究助成（50 万円/件・年）：

4 年目：5 件、 3 年目：4 件、 2 年目：5 件、 新規：5 件

計 19 件 計 950 万円

2) 特別研究助成

（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県対象、250 万円/件・年）：

2 年目：2 件、 新規：3 件

計 5 件 計 1,250 万円

総計 24 件 計 2,200 万円を交付した

各助成金の交付先は【別紙 1】の通り。

2. 令和 3 年度助成事業対象者の募集および審査・選考

1) 令和 3 年度特別研究助成

（1）募集テーマ等の決定

令和 2 年 5 月 13 日の第 1 回選考委員会・企画会議にて、令和 3 年度特別研究助成の募集テーマの選考および募集要項等の審議を行い、募集テーマを「がん及び関連疾患の克服に向けた独創的創薬研究」に決定し、審査分野を薬学系と医学系に分けて募集することとした。さらに募集テーマにおける専門分野の権威者 2 名を専門委員として委嘱することを決定した。また、募集地域を拡大し近畿 2 府 4 県以西の大学等研究機関所属の研究者とし、募集方法については、募集要項を対象地域の大学等研究機関へ郵送および篷庵社ホームページへの掲載により公示すること、募集期間を令和 2 年 9 月 1 日から 10 月 30 日とすることも決定した。

これらについて令和2年5月29日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月9日開催の理事会にて承認可決した。

(2) 募集および審査選考

令和2年9月1日から10月30日までの募集期間に薬学系11件、医学系20件、合計31件の応募があった。これらについて同年11月11日に選考委員長から各委員に第一次審査として書面審査を依頼し、令和3年1月28日開催の第2回選考委員会にて書面審査の結果を基に審議し、令和3年度助成者の選考等を行い、薬学系2名、医学系2名、計4名を助成者候補として決定した。結果について、令和3年2月5日に選考委員長から理事長へ答申し、令和3年3月8日開催の理事会にて承認可決した。

2) 令和3年度研究助成

(1) 募集および第一次審査

令和2年3月23日理事長より8名の理事及び評議員に令和3年度研究助成の候補者の選出を依頼し、東京大学、大阪薬科大学、北海道大学、富山大学、広島大学、岐阜薬科大学、三重大学、大阪大学等、全国から8名の候補者が選出された。令和2年5月13日の第1回選考委員会・企画会議にてこれらの候補者の第一次申請書の審査を研究業績および当財団の目的に適う人物であるか等以下のチェックポイントの観点から審議を行った。

- ・優秀な素質を有するが、財源不足等のため研究の継続が困難である研究者
- ・他からの助成を受けにくい薬学等の基礎研究を行なっている研究者
- ・特に若手の独立前後で将来有望な研究者

審議の結果、5名を第二次審査の候補者として選定した。

以上の結果について、令和2年5月29日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月9日開催の理事会にて承認可決した。これら5名について同年6月30日に理事長より各選出者に第二次申請書の作成を依頼した。

(2) 第二次審査及び選考

第一次審査にて決定された5名について、第二次申請書により書面審査を行い、その結果を基に令和3年1月28日開催の第2回選考委員会にて審議し、この5名を令和3年度研究助成の被助成者候補とすることを決定した。以上の結果について、令和3年2月5日に選考委員長から理事長へ答申した。

令和3年3月8日開催の理事会にて、各候補者の選出者より研究概要及びチェックシート【別紙2】の内容、また当財団の目的に合った研究者であること等詳細に説明し質疑応答を行っ

たのち、理事会にて慎重に審議してこれら5名について令和3年度研究助成対象者として承認可決した。

3. 研究成果報告【別紙3】

第39回研究助成発表会を令和2年7月3日、ヒルトン大阪（大阪府大阪市北区梅田1丁目8番8号）において開催した。

新型コロナウイルス感染症対策として、会場を塩野義製薬株式会社医薬研究センターよりヒルトン大阪に変更し、聴講者の制限及び懇親会の中止等、規模を縮小して開催した。

III. 財団運営の概況

1. 理事会の決議事項

(1) 書面開催：令和2年5月1日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

議題2：第66年度（平成31年度）事業報告の件

第66年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）事業報告書について原案通り承認可決した。

議題3：第66年度（平成31年度）決算書承認の件

第66年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）決算について原案通り承認可決した。

議題4：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

議題5：特定資産の追加取得の件

原案通り承認可決した。

(2) 令和2年6月9日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田1丁目8番8号）において開催）

議題1：第66年度（平成31年度）定期提出書類の件

原案通り承認可決した。

議題2：令和3年度特別研究助成募集テーマ及び募集要項決定の件

原案通り、令和3年度特別研究助成の募集テーマを「がん及び関連疾患の克服に向けた独創的創薬研究」とすること、募集範囲を近畿2府4県以西に拡大すること等、承認可決した。

議題3：令和3年度研究助成第一次審査の件

令和2年5月13日開催の選考委員会の決議通り、研究助成5名を原案通り承認可決した。

議題4：学術委員選定の件

原案通り承認可決した。

議題 5：規程及び規則改定の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：評議員辞任の件

報告事項 2：理事長は令和 2 年度 1 度目の業務執行状況報告を行なった。

(3) 書面開催：令和 2 年 12 月 18 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

(4) 令和 3 年 3 月 8 日（塩野義製薬株式会社（大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号）において開催）

議題 1：第 68 年度（令和 3 年度）事業計画承認の件

第 68（令和 3 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 26 件とすること及び令和 3 年 7 月 21 日に第 40 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 2：第 68 年度（令和 3 年度）収支予算承認の件

第 68 年度（令和 3 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 3：資金調達及び設備投資の見込について

原案通り承認可決した。

議題 4：70 周年事業の件

70 周年記念事業の褒章について対象者及び副賞金額について承認可決した。

議題 5：令和 3 年度特別研究助成 受領者決定の件

令和 3 年 1 月 28 日開催の選考委員会の決議通り、令和 3 年度新規助成者について特別研究助成 4 名を原案通り承認可決した。

議題 6：令和 3 年度研究助成 受領者決定の件

令和 3 年 1 月 28 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名についても慎重審議の上、原案通り承認可決した。

議題 7：助成事業の Web システム導入の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：理事長は令和 2 年度 2 度目の業務執行状況報告を行なった。

2. 評議員会の決議事項

(1) 令和 2 年 6 月 9 日定時評議員会（ヒルトン大阪（大阪府北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選任の件

互選により選任した。

議題 2：議事録署名人選任の件

互選により 2 名を選任した。

議題 3：第 66 年度（平成 31 年度）事業報告及び決算書承認の件

第 66 年度（平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで）事業報告書及び貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録等について原案通り承認可決した。

議題 4：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

議題 5：特定資産の追加取得の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：評議員辞任の件

報告事項 2：学術委員選定の件

(2) 令和 3 年 3 月 8 日（塩野義製薬株式会社（大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選任の件

互選により選任した。

議題 2：議事録署名人選任の件

互選により 2 名を選任した。

議題 3：第 68 年度（令和 3 年度）事業計画承認の件

第 68 年度（令和 3 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 26 件とすること及び令和 3 年 7 月 21 日に第 40 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 4：第 68 年度（令和 3 年度）収支予算承認の件

第 68 年度（令和 3 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 5：資金調達及び設備投資の見込みについて

原案通り承認可決した。

議題 6：70 周年事業の件

70 周年記念事業の褒章について対象者及び副賞金額について承認可決した。

報告事項 1：令和 3 年度特別研究助成・研究助成 受領者決定の件

報告事項 2：助成事業の Web システム導入の件

3. 報告事項

(1) 令和 2 年 6 月 1 日

大阪府中央府税事務所長より令和 2 年 5 月 29 日付の、平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの「法人府民税の均等割減免通知書」を受領した。

(2) 令和 2 年 6 月 15 日

「第 53 回国際化学オリンピック日本大会 2021」に 100 万円の寄附を行った。

(3) 令和 2 年 6 月 19 日

行政庁（内閣府）へ第 66 年度（平成 31 年度）事業報告書および監査報告書を提出した。

(4) 令和 2 年 6 月 29 日

「第 31 回国際生物学オリンピック 2020 長崎大会」に 100 万円の寄附を行った。

(5) 令和 2 年 7 月 9 日

行政庁（内閣府）へ役員変更届出を提出した。

(6) 令和 3 年 3 月 23 日

行政庁（内閣府）へ令和 3 年度事業計画書および収支予算書等の定期提出書類を提出した。

以上

令和2年度研究助成金交付先一覧表

◆ 研究助成 (1件50万円×19件=計950万円)

助成	所属 (申請時)	研究者	研究テーマ
4年目	名城大学薬学部	北垣 伸治	シクロファン系の面不斉を利用した新規触媒の開発
4年目	大阪大学大学院工学研究科	鳶巣 守	生理活性分子の直接変換を指向した不活性結合の触媒的変換法の開発
4年目	帝京大学薬学部	高橋 秀依	軸不斉を活かした医薬品の分子設計・高活性化化合物の創製
4年目	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	岡 正啓	細胞核輸送ネットワークと高次生命機能
4年目	近畿大学薬学部	田邊 元三	サラシノールをシードとする高活性スルホニウム塩型食後過血糖改善薬の合成と活性評価
3年目	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	井上 剛	電気生理技術を用いた難治性神経疾患の創薬標的分子の同定
3年目	同志社女子大学薬学部	前川 京子	メタボローム解析による多発性骨髄腫の治療効果・有害事象発現を予測するバイオマーカーの探索研究
3年目	京都薬科大学 病態薬科学系臨床薬理学分野	鳥羽 裕恵	慢性腎臓病増悪因子としての細胞外マトリックスの役割
3年目	慶應義塾大学薬学部	登美 斉俊	胎盤関門透過の種差を生み出す機能分子の同定とその機能調節機構の解明
2年目	大阪市立大学大学院 医学研究科	塩田 正之	熱ショックタンパク質 70 のがん進展における機能解明と治療標的化
2年目	千葉大学大学院医学研究院 診断病理学・病理診断科	池田 純一郎	治療標的となるがん幹細胞の可塑性に関与する因子の検討
2年目	東京大学大学院薬学系研究科	花岡 健二郎	生体深部の可視化を目指したバイオイメージングプローブの創製とその応用
2年目	日本医科大学 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学) /共同研究施設 分子解析研究室	早川 清雄	細胞内脂質調節薬剤の開発と炎症制御メカニズムの解析
2年目	京都大学大学院工学研究科	三木 康嗣	水溶性近赤外光増感分子の開発と腫瘍セラノスティクスへの展開
新規	大阪大学大学院薬学研究科	井川 貴詞	高歪み多環芳香族炭化水素の革新的合成
新規	国立医薬品食品衛生研究所	佐藤 薫	不飽和脂肪酸のグルタミン酸トランスポーター制御機構の解明と中枢神経系創薬への応用
新規	大阪大学産業科学研究所	滝澤 忍	環境低負荷型不斉ドミノ反応の開発と多官能性キラル複素環骨格構築への展開
新規	徳島大学大学院医歯薬学研究部 (薬学域)	立川 正憲	ヒト血液脳関門透過機構に基づく脳細胞標的化微粒子創製の基盤構築研究
新規	福井大学学術研究院医学系部門・分子生体情報学分野	山田 雅己	核移行因子 KPNA1 による軸索輸送制御メカニズムとその生理的意義の解明

◆ 特別研究助成 (1件250万円×5件 = 計1,250万円)

助成	所属 (申請時)	研究者名	研究テーマ
2年目 第1位	神戸薬科大学	上田 昌史	環骨格リモデリング戦略に基づく多環式ヘテロ環の創製
2年目 第2位	京都大学大学院薬学研究科	小林 祐輔	アミドの分子変換を基盤とした医薬品シーズの創製
新規 第1位	大阪大学大学院薬学研究科	笠井 淳司	中枢疾患創薬を加速する全脳細胞解析による不安障害の標的分子の探索
新規 第2位	国立循環器病研究センター 研究所 病態代謝部	堀 美香	家族性高コレステロール血症における PCSK9 の意義の解明と病態モデルの開発
新規 第3位	京都薬科大学統合薬科学系	高田 和幸	アルツハイマー病に対する自己幹細胞由来免疫細胞を利用した細胞性医薬品の開発

以上

公益財団法人 蓬庵社 XXX 年度研究助成申請書作成チェックシート

選出条件【必須】

満たされているかご確認ください。

● シオノギ製品を用いた臨床研究を含まない研究であること	<input type="checkbox"/>
● 候補者の年齢は満 55 歳以下であること	<input type="checkbox"/>

選出条件

以下について、いずれかの内容が記載されているかご確認ください。

※いずれかの項目に該当するものが一つでもあれば、対応する(1)～(3)のチェック欄にチェックを入れてください

(1) 優秀な素質を有するが、財源不足のため研究の継続が困難である研究者		<input type="checkbox"/>
1	候補者の学歴及び職歴が助成対象として相応しいか。	
2	最近 5 年間の発表論文リストの内容が助成対象として相応しいか。	
3	本研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況に不足が生じているか。	
(2) 他からの助成が受けにくい薬学等の基礎研究を行っている研究者		<input type="checkbox"/>
1	本研究は独立したテーマであり、助成の必要性・妥当性に問題ないか。	
2	本研究の全体構想及び研究目的について、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述されているか。 ①研究の学術的背景と現在の状況および、今後期待される成果 ②研究期間内に何をどこまで明らかにするのか	
(3) 特に若手の独立前後で将来有望な研究者		<input type="checkbox"/>
1	候補者の年齢が特に若手の満 45 歳以下である。	
2	選出委員からみた候補者の研究遂行能力の高さ、研究分野で十分大きな役割を果たすと期待する理由の記述があるか。	
(4) その他 上記以外で当財団の目的に適った研究者・テーマである場合は、理由をお書きください		

推薦者は候補者と直接的な利害関係となる事実はありません。

推薦者：

第39回公益財団法人篷庵社研究助成発表会

日 時： 令和2年7月3日(金)10時30分から15時35分

場 所： ヒルトン 大阪 4階 真珠の間

大阪府大阪市北区梅田1丁目8-8

※講演順、演題等に変更となる場合がございます。

10:30-10:35 ご挨拶 公益財団法人篷庵社 理事長 武田 禮二

		演 題 (講演 25 分、討論 10 分)	座 長
10:35-	1.	肝障害を有する医薬品の代謝活性化機構の解明とそれを基盤にした低毒性医薬品の創製 大江 知之 先生 (慶應義塾大学薬学部)	廣部 雅昭 先生 代 理 長野 哲雄 先生
11:15-	2.	ブドウ球菌毒素が誘導するスーパー抗原活性に対する植物由来成分および生薬による制御機構の網羅的解析 増田 修一 先生 (静岡県立大学食品栄養科学部)	伊勢村 護 先生
11:55-12:40	昼 食 休 憩		
12:40-	3.	ストレスによる薬物欲求増大の神経メカニズム 金田 勝幸 先生 (金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室)	佐藤 公道 先生
13:20-	4.	超高感度蛍光共鳴エネルギー移動による定量的バイオセンシングを可能とする新しい糖鎖高分子の創出 松岡 浩司 先生 (埼玉大学大学院理工学研究科)	西村 紳一郎 先生
14:00-14:15	休 憩		
14:15-	5.	生活習慣病に対する新しい診断治療法の開発 西山 成 先生 (香川大学医学部薬理学)	岩尾 洋 先生
14:55-	6.	《特別研究助成》 小児脳難病の病態解析によって発見された若年脳遺伝子の機能解明 森 雅樹 先生 (滋賀医科大学 神経難病研究センター)	塩野義製薬(株) 塚本 輔 氏

以 上

前記のとおりご報告いたします。

令和3年6月

公益財団法人 篷 庵 社

理事長 武 田 禮 二

附属明細書

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年6月

公益財団法人篷庵社